

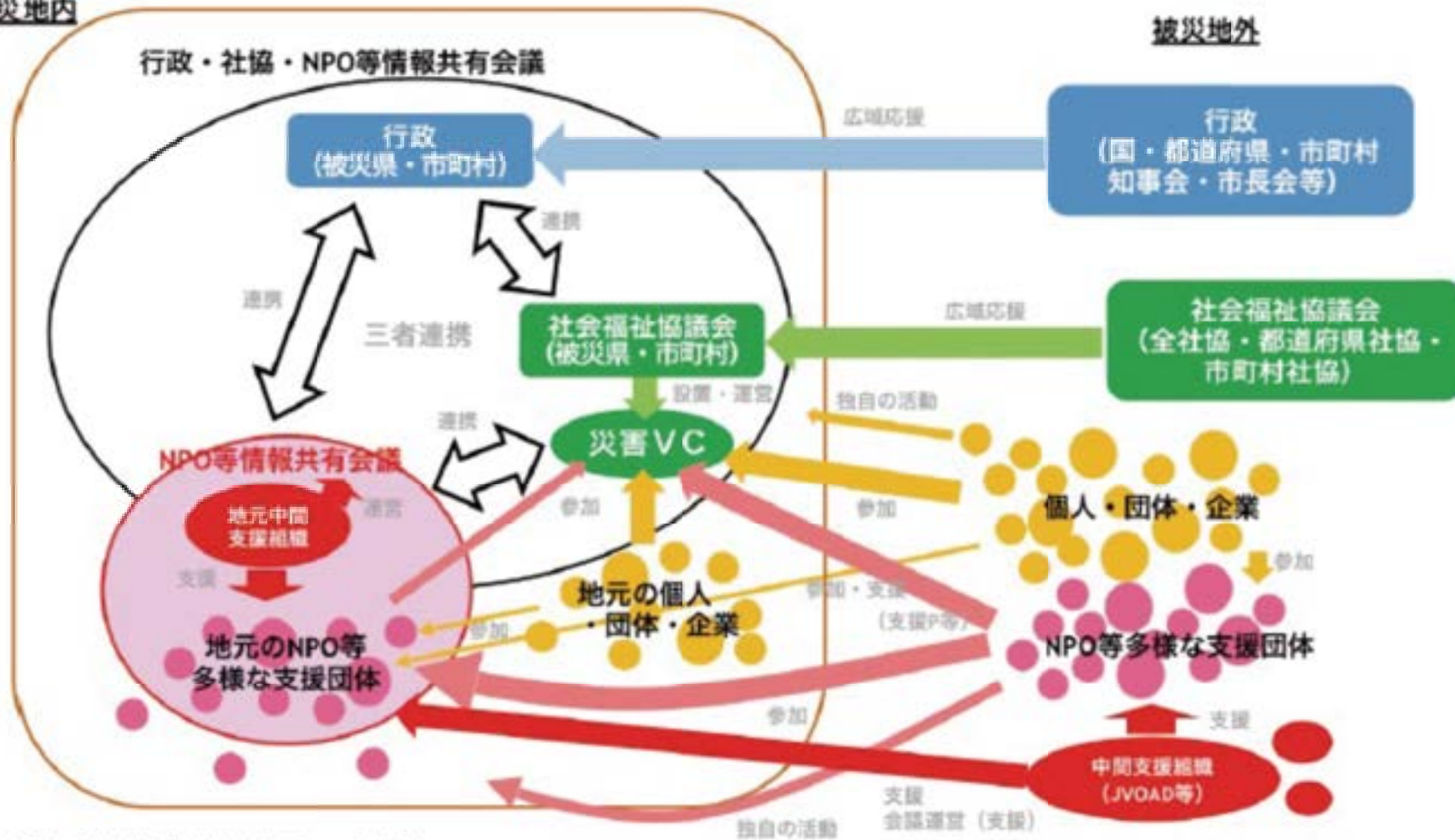
情報共有会議



被災地内・被災地外の多様な主体による連携モデル

被災地内

被災地外



※ 2016年熊本地震クラスを想定

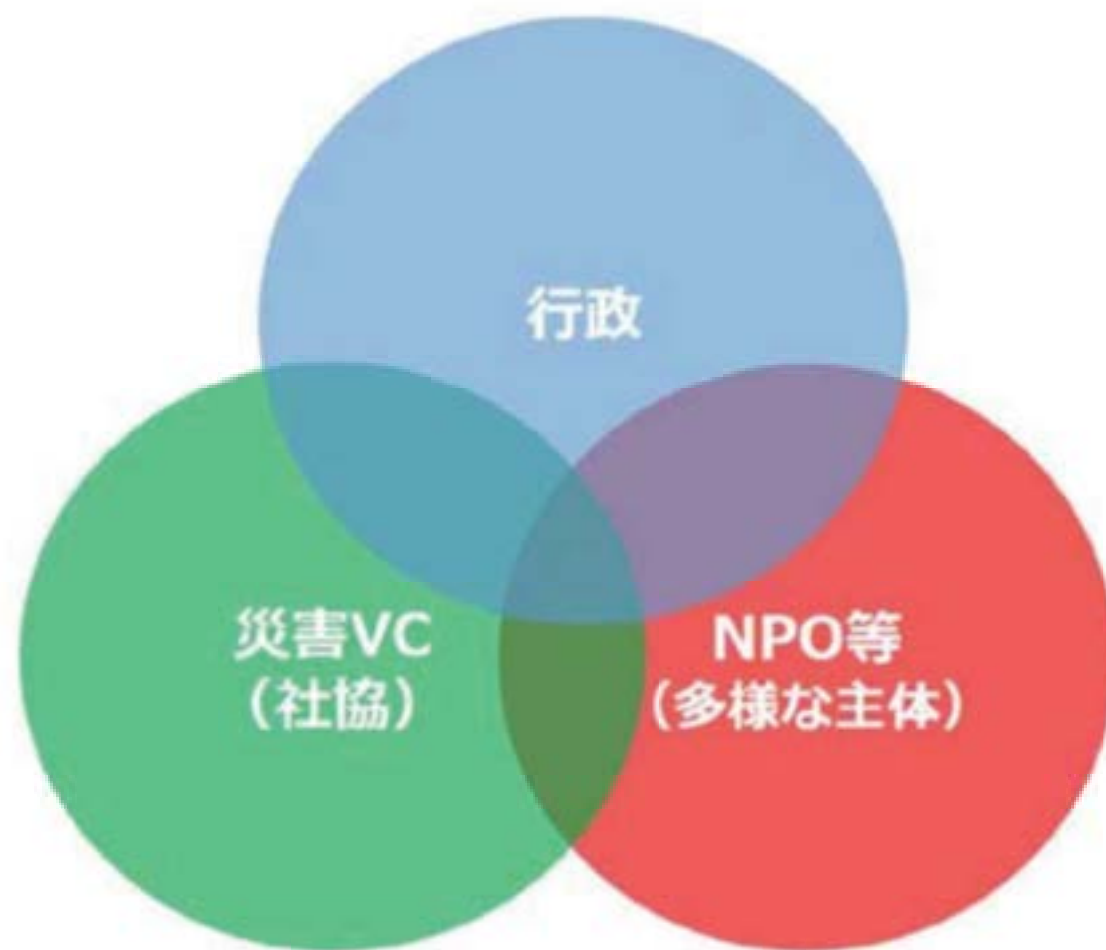
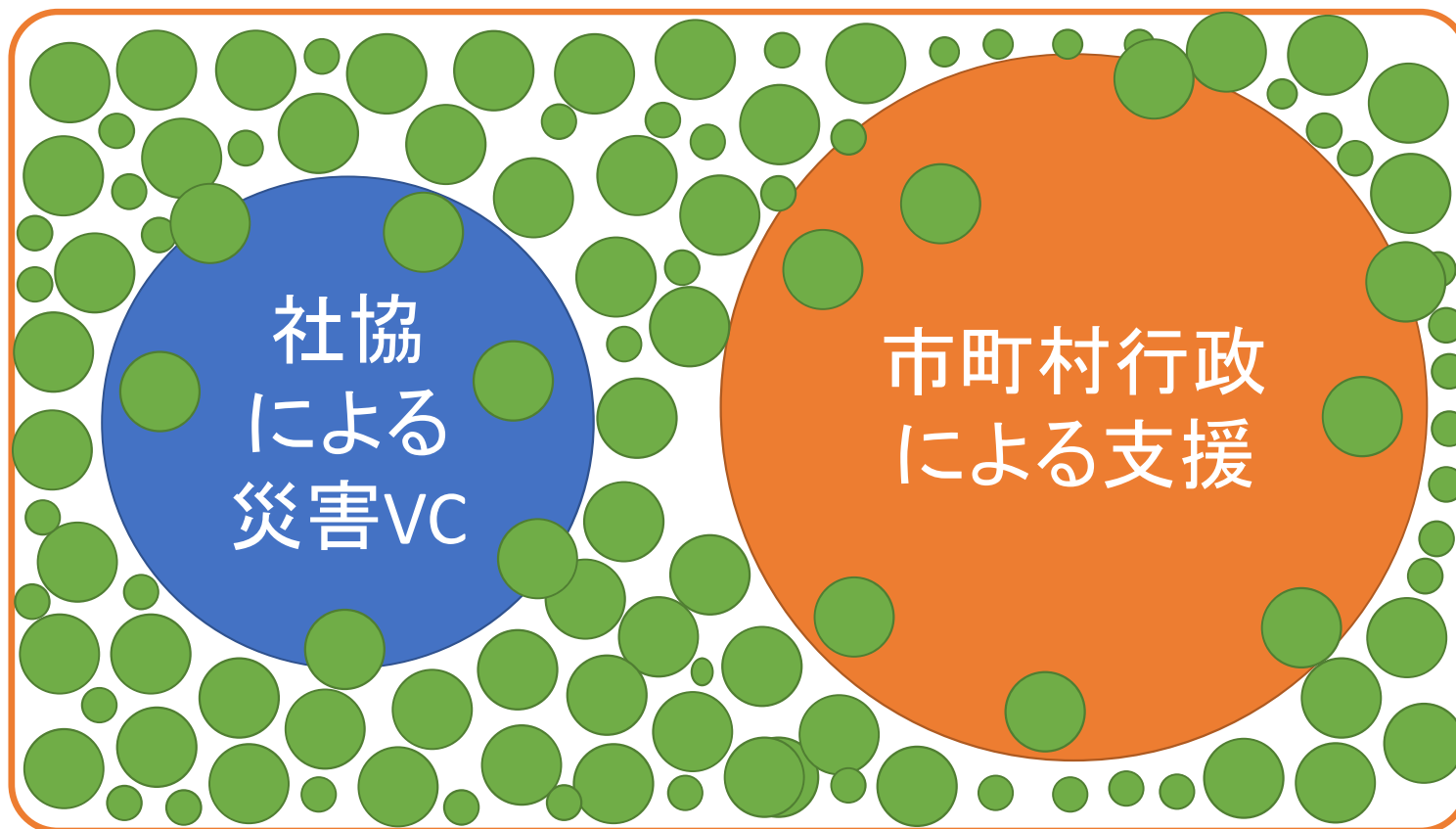


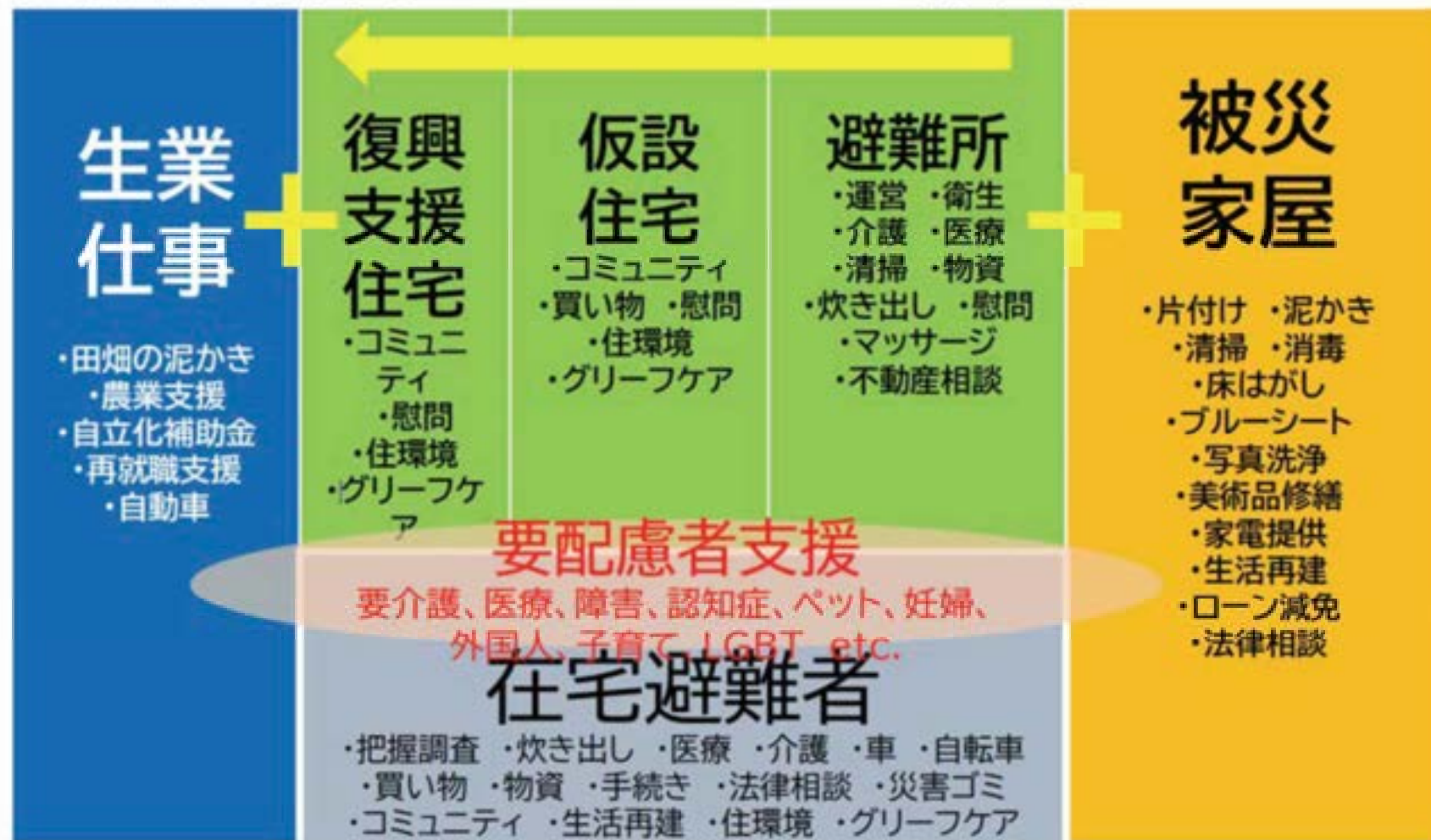
図 1.5 災害時の「三者連携」のイメージ

ニーズの隙間を埋める = 民間の支援

あわせて市町村や社協VCの支援・協働



災害支援ネットワークの領域



外部支援の
受援調整

社協・行政の
窓口

県内の民間の
域内支援調整






しい。

と、声があがった。

最後に、千葉南部災害支援センターの加納の「9団体の報告を聞いてあらためて、みんなすごいなあ〜と感心させられた。支援の現場にいと、やり方や考え方の違いに直面することがあるが、今後の千葉での支援に関しては、ないものを自主的に行う・提案する関係性が作れればと考えている。千葉で生活をするなかで、毎日いいところだと実感している。そのいいところにどう住み続けるかを考えていきたい。災害支援を入りに、どうしていくかを考えていきたい。

千葉南部災害支援センターの目的はあえてざっくりしたものになっている。だからチャンスだと考えてほしい。今の運営団体、協力団体は途中で抜けるところもある。今後できることがあれば、積極的に加わってほしい。自分たちが何を通して地域を活性化していくか宿題として考えてほしい。災害に関係なく地域には多くの課題がある。地元を愛する皆さんが主役になって千葉南部災害支援センターを育ててほしい」というコメントで終了した。（が、終了後も会場では、情報交換が続いた・・・）

Follow me!

 Follow

山間部・沿岸部の2地域での全戸調査

(ちばのWA地域づくり基金の助成にて実施)



回覧

回覧で

お願いします

台風15号被災地域の状況把握

千葉県南部災害支援センター（※1）は、台風15号の被災状況把握と、今後の支援制度のあり方や、ボランティア活動を目的として、富津市豊岡地区、巖南町吉浜地区を調査します。

被災地域全戸調査は、千葉県南部災害支援センターのボランティア・スタッフが、一軒ずつ訪問し、調査するものです。調査にあたり、お時間をいただくことがありますので、担当スタッフが訪問した際はご協力をお願いします。なお、調査に従事するスタッフは、調査員身分証を携帯し、名札を着用しています。

台風15号被災地域全戸調査

調査期間

令和2年3月16日～3月31日

実地調査対象地区

富津市豊岡、巖南町吉浜

千葉県南部災害支援センター

千葉県鴨川市金栗5番地聖山オアシス

電話 04-7094-5551 FAX 050-3737-9081

Email info@scdr.jp

※「千葉県南部災害支援センター」とは、台風第15号および台風第19号被害についての復旧活動を進めるとともに、将来の地域づくりを見据えて、農業、漁業、観光などの基幹産業の再生を支援することを通して、地域住民の方で地域住民の暮らしを支えることを目標に活動しています。

運営団体・特定非営利活動法人ディーブデモクラシー・センター

特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

特定非営利活動法人ADRA Japan

一般社団法人ピースボート災害支援センター

資料2 (調査票)

台風 15 号被災地域の状況把握 調査票 記入者: _____ 日時: 月 日 時 分 No. _____

調査実績	<input type="checkbox"/> 調査不要 <input type="checkbox"/> 調査拒否 <input type="checkbox"/> 調査済み <input type="checkbox"/> 資料提供済 <input type="checkbox"/> 不在 1 回目 (/ :) <input type="checkbox"/> 不在 2 回目 (/ :) <input type="checkbox"/> 不在 3 回目 (/ :)
再訪問希望	<input type="checkbox"/> 平日 <input type="checkbox"/> 土日 / <input type="checkbox"/> 午前 <input type="checkbox"/> 午後 <input type="checkbox"/> 夜
二次対応	<input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 二次対応の必要有

1. 世帯情報

地区名:	ブロック番号:
世帯主の名字:	聞いた人(例:世帯主妻):
住所:	

※未回答の場合必ず記入(未回答→□①、□②、□③、□④、□⑤、□⑥)

①世帯人数	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 9
②要配慮者該当	<input type="checkbox"/> 高齢者(65歳以上) <input type="checkbox"/> 要介護者 <input type="checkbox"/> 乳幼児(0-6歳) <input type="checkbox"/> 妊産婦 <input type="checkbox"/> 障害者 <input type="checkbox"/> 難病・傷病者 <input type="checkbox"/> アレルギー等 <input type="checkbox"/> 外国人 <input type="checkbox"/> その他() 具体的な内容()
③要配慮者数	<input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 6
④高齢者のみ世帯	<input type="checkbox"/> 該当しない <input type="checkbox"/> 高齢者のみ 1 名 <input type="checkbox"/> 高齢者のみ 2 名 <input type="checkbox"/> 高齢者のみ 3 名以上
⑤子ども	<input type="checkbox"/> 第一子(才) <input type="checkbox"/> 第二子(才) <input type="checkbox"/> 第三子(才) <input type="checkbox"/> 第四子(才) <input type="checkbox"/> 第五子(才)
⑥緊急時に支援してくれる家族・知人	<input type="checkbox"/> いない <input type="checkbox"/> いる(居所:□市内、□市外、□県内、□県外、支援:□片付け □生活の世話 □金銭) 来訪実績(時期: 頻度:)

2. 現在の生活状況

※未回答の場合必ず記入(未回答→□①、□②、□③、□④、□⑤、□⑥)

①日常の困難	<input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 入浴 <input type="checkbox"/> 寝所 <input type="checkbox"/> 冷房環境 <input type="checkbox"/> 電話・通信 <input type="checkbox"/> 衣服(洗濯) <input type="checkbox"/> 買い物 <input type="checkbox"/> 移動手段 <input type="checkbox"/> 人と会うこと <input type="checkbox"/> 近所の集まり <input type="checkbox"/> 仕事(自営含む) <input type="checkbox"/> 日課(家事・草刈り等) <input type="checkbox"/> その他 内容()
②健康	・からだ(口腔含む): <input type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 発災後不調あり、現在は復調 <input type="checkbox"/> 現在不調 内容(誰が: /どのように:) (誰が: /どのように:) ・こころ: <input type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 発災後不調あり、現在は復調 <input type="checkbox"/> 現在不調 内容(誰が: /どのように:) (誰が: /どのように:)
③医療	持病: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(誰が何を:) <input type="checkbox"/> 不明 かかりつけ通院先: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(□市内 □市外) ※□災害後の変更あり 治療: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり /□災害後の変更あり(内容:) 服薬: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり /□災害後の変更あり(内容:)
④介護/障害	対象者: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり→発災から現在までを下行回答 サービスの利用: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり→ 内容: □同等 □変更(変更理由:) 量: □同等 □変更(変更理由:)
⑤教育・保育(子ども)	対象者: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり→発災から現在まで困ったこと <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 内容()
⑥行政支援情報の入手	<input type="checkbox"/> 特になし <input type="checkbox"/> Web サイト <input type="checkbox"/> 電話問合せ <input type="checkbox"/> 行政の配布物 <input type="checkbox"/> 避難所等での掲示 <input type="checkbox"/> 町内会等の掲示板・回覧板 <input type="checkbox"/> 町内会長 <input type="checkbox"/> 近隣住民・知人 <input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員 <input type="checkbox"/> 保健師 <input type="checkbox"/> ケアマネ <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> 災害ボラセン <input type="checkbox"/> ボランティア団体 <input type="checkbox"/> 学校・幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 介護・障害サービス事業者 <input type="checkbox"/> その他()
⑦特記事項	

台風15号 被災地域の 状況把握調査 報告書

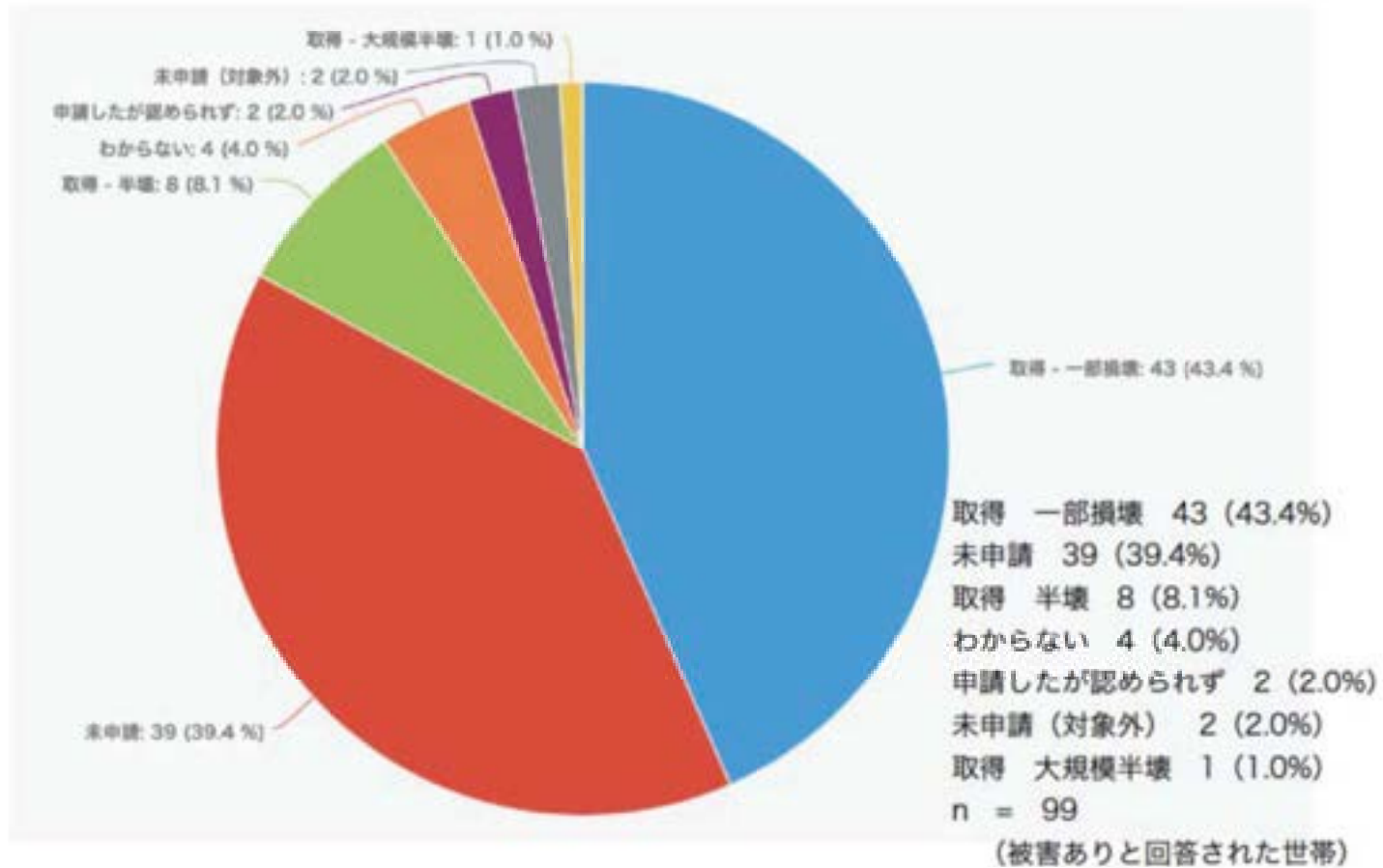
地域のニーズを把握し、
長期化する支援のあり方を構築するための集落全戸調査事業

調査期間 令和2年3月20日～25日
訪問戸数 255戸（うち120戸で聞き取り調査）

千葉南部災害支援センター

この調査事業は、ちばのWA地域づくり基金
「中央ろうきん2019千葉県台風・豪雨災害支援基金（特別枠）」の助成により行いました

4. 罹災証明書の取得状況（全体）



5. 罹災証明書の取得状況（富津市豊岡）



発災直後のローラー作戦【参考】

((富津市災害ボランティアセンター))

次の日、状況がもう少し見え、話し合いが始まった。市の地域防災計画には、災害VCの立ち上げは市がやって、運営は社協がやると記載はあったが、合同訓練はしていなかった。市・社協職員の中にも、社協が担当す



空から見た館山市の被災直後の風景

10 令和元年房総半島台風での対応を今後の災害支援につなげるために

ることを知らない職員もいた。自分自身も6月に社協に就職したばかりで、あまり詳しくなかった。市からの要望で、ボランティアの災害VCへの事前登録や支援物資の調整が始まり、災害VCの立ち上げに話しの話し合いが持たれた。まずは館山市社協で運営可能

だった。

加納 (CVOAD)：富津市の活動では、ローラー作戦を実施したことが大きな特長だと思います。私ものべ10日間くらい活動に加わったのですが、それはどんな経緯で始まったのですか？

鈴木 (富津市)：ローラー作戦は、17日くらいに始めた。健康福祉部社会福祉課の方から、要援護者や障害をお持ちの方は大丈夫なのか？という話が出てきて、介護福祉課や社会福祉課が、高齢者の方に対して電話をしていたのですが、なかなか繋がらないケースが出てきた。

特に天羽地区は、いろんなものの緊急度が高かったので、これは、ローラーかけた方がいいねということで、その業務を社会福祉士会に頼もうということになった。大会議室にいろんな物資が来ていたので、それを車に積んで配ってくるということと、ニーズの様式を渡して、必要であればこれに記入してくださいと。一日回って書いてきてもらったものをうちの職員がまとめて、コー

ディネートするスタッフに情報を渡した。

一旦山の方へ行ったら、一日帰って来れないですから、10台以上クルマはあったのですが、それでも足りなかった。結局、2巡実施した。

れないのはなぜ？」という声が被災者からある。ヒアリングしたことが適切な支援につながる仕組みを社協や行政等で平時から整理しないとつながらない。次の災害でも同じことが起こる可能性がある。

市との協定の有無や災害VCの立ち上げや役割が地域